

ディスコグラフィー収録

ディスコグラフィー【2022No.185】(HP 掲載)

分類：アナログ盤

作曲家：

曲：Oh lady be good 他

演奏：小川理子他

発売：ウルトラアートレコード

No. : UA1004

概要：



本盤は、OTOEN2022 のデモで使用されていて、音質も良い印象でした。SP ではない 78 回転盤があることは知っていましたが、TohrensTD124 も使っていることもあって物は試しと思い購入しました。

ネット上の情報は下記のとおりです。

ウルトラアートレコード 78RPM シリーズ第一弾。誰も聴いたことのない超高音質レコード誕生。

通常 LP 盤は 33 1/3 回転で演奏しますが、このレコードは 78 回転という SP 盤用に供される回転数を用いて音溝が切られています。LP レコードは角速度が一定ですので回転数を上げることによって線速度の向上を促し、再生周波数、ダイナミックレンジの拡大を初めとする諸特性の改善によって、超高音質を実現した、オーディオファン、音楽ファン待望のレコードです。

演奏：

A 面/Oh lady be good

小川理子(ピアノ)

田辺充邦(ギター)
山村隆一(ベース)
バイソン片山(ドラム)

B 面/Smile

小川理子(ピアノ & ボーカル)
浜崎航(テナーサックス、フルート)
中平薫平(ベース)
吉良創太(ドラム)

【ソングリスト】

A1.Oh lady be good

B1.Smile

再生は、LINN LP-12 では 78 回転の設定はできませんので、TohrensTD124 と Garad401 を使用して行います。ともに再生時には TACU-1 を使用し、カートリッジのシェルにはダンパーフレークを貼っています。

TohrensTD124 のカートリッジは、SPU Synergy、フォノイコは ZANDEN Model 120 です。TohrensTD124 の場合、ZANDEN Model 120 の設定は、RIAA、正相、第 4 時定数 High にしています。

Garad401 のカートリッジは、ZYX R100-EX、フォノイコは 47 研 4718 です。注意事項として、針飛びの場合は、針圧で調整するようにとの記載があります。当然のことながら SP 盤用の針を使ったり、SP 用のイコライザーカーブを使ったりすることはできません。

TohrensTD124 の再生では、針飛びなどせずに無事再生できました。

Garad401 ではストロボで回転数を 78 回転の微調整することに手間取りましたが、何とか再生でき、最外周では若干針飛び傾向がありましたが、数周すると収まりました。

TohrensTD124 のアームは RMG212 で古いものですが、カートリッジが重針圧のためトレースに問題なく、Garad401 のアームは古いダイナミックバランスの FR-64S でカートリッジが軽針圧であるため、線速度の大きい最外周でトレースの問題があったのではないかと思います。

音質は、TohrensTD124 の場合、刮目すべきもので、ピアノはまるで眼前で弾いているような印象です。その他の楽器もボーカルもリアルそのもので、A面のドラムスの出だしなどあまりのリアルさにギクリとする場面もありました。

Garad401 では、基本的には同様の印象ですが、軽針圧のカートリッジのせい、若干音の厚みや重量感が後退する印象です。

さらに TohrensTD124 の再生を DSD 録音してみることにしました。

ZANDEN Model 120 から Brooklyn DAC+にアンバランス入力し、Brooklyn DAC+のバランス出力を BACU-2000 経由で TASCAM DA-3000 に入力して 5.6MHzDSF のフォーマットとして録音します。なお、DA-3000 には GPS-777 から 44.1KHz のクロックを入力しています。得られた録音音源を fidata HFAS1-S10 にコピーし、Brooklyn DAC+経由で再生したところ、アナログ再生の雰囲気はかなりのところ録音にも伝わっていることが分かりました。

以上、アナログプレイヤーの回転数設定が可能で、かつカートリッジやアームのトレース能力に問題がない限り、78 回転盤は音質面の優位性を確保できることが分かりました。

以上